

◇ 4月の天文暦 ◇

日 時	記 事
1 16	月 最遠
5 1	清 明 (太陽黄経 15°)
6 9	天王星 衝
7 9	下 弦
8 9	金 星 東方最大離角
13 7	水 星 留
14 6	朔
15	月 最近
20 9	穀 雨 (太陽黄経 30°)
22	上 弦
25 10	木 星 留
28 19	月 最遠
21	水 星 西方最大離角
22	望

言いたい放題・言いたい放題・言いたい放題

就職問題と神武天皇と

冬のある日、過密気味の院生室でコーヒーを飲みながら話しに花が咲く、落ちつく先は毎度“就職”である。

「若手名簿でみると、天文・天体物理をやっている院生数～150人ですが、われわれ院生の会事務局をやっている東大としては何か言わねばなるまいというところ。この教室ではD3年代から特に……ですね」「来年度が楽しみというくらいのもので、71年ですでにオーバードクター～20人」「奨学金貸与も打ち切られ、30歳ちかい男がアルバイトに追われ、あるいは妻子を抱えて路頭に迷う。そこには佐藤内閣のもとでの学費値上、物価上昇の風が吹く、といった風景ですね」

「立て飢えたる者よ！」

「……もひとつ氣勢が上らない、という気配もあるぞ」「問題が深刻すぎて、茶化したり冗談めいた口調で話すくらいで、かえって真剣な議論はないのじゃないかな。

責任者よ出てこい——といってもそんな人いないかも知れないけど、大研究機関にいるようなエライ人やエラクナイ人がどんな努力してるか聞きたいとも思う」「もちろん現在や未来の就職状況は個人の立場でみることもできるけど、30人/年が職を探していくということ、これも考えてみたいですね」

「とにかく天文の研究に打ちこめる保障がほしい。月4万円の学振研究員は天文1名あるかなしかでしょう、誰がきめてるのか知らないけど。学問の発展を願う立場からみて、激しいアルバイトのかたわらの研究とはゾツとしない光景でね」「常にここにもどってくるんだけど。こんの日本国の文教科学技術政策の根本を問題にしたいだ!」「これ抜きにして議論できないよ。古在さんにもがんばってもらいましょ」

「過去の“就職難”はその後どういう経過をたどったのかな」「なんとかなった」「“なんとか”の内容は?」「……」「定年退官 = 新採用の流束保存だけ考える人はいないだろ。天文専攻教官のいる大学15校(高校理科教員養成校の10%の由。本誌66年p.180)の数字は手がかりにならないか」

「白馬の夏の学校で、天文人ロ一犬貯水池たる東京天文台への人事公募公開要求があったな。その東京天文台のことだけど、理科年表に断然気に入らない部分があるんだ。本を開くと、神武天皇即位紀元2632年、とまずこう読める。なんだこれ、今時こんなの使う?」

「皇紀と書いてないだけ戦前臭はうすいんじゃない」「いや、戦前の巻もほとんど同じですよ。存在もしない“即位”であることは言うに及ばず、非常に政治的に意識的に使うしかない神武天皇即位紀元なるものをきれいしく掲げるセンスを問題にしたい」「時代はめぐってまた皇紀の流行するのを待つ深謀があるかも知れんぞ。時勢に案外敏感で」

——話しは神武さんに脱線したが、聖徳太子の方は雑談ですますには手にあまるようであった。

(東京大学天文教室 横尾広光)

